

神道大祓全集

高皇產靈大御神

天之御中主大御神

神皇產靈大御神

[illegible]

目次

第壹章 祝詞	一
祓祝詞（はらえのりと）	二
祓祝詞（はらへのりと）	四
神棚拝祝詞（かみだなはいしのりと）	四
拝礼（はいれい）※二拝 二拍手（祈念）一拝	五
天津祓（あまつはらえ）	六
天津祓 吐普加美依身多女の意味	七
天津祓（あまつはらえ）	十
国津祓（くにつばらい）	十
蒼草祓（ひとあおくさのはらい）	十
天津祝詞（あまつのりと）	十一
産土神祓祝詞（うぶすなのかみのはらいのりと）	十二
神言（かみごと）※言霊の大祓祝詞	十四
開運祝詞（かいうんのりと）	十五
略拝詞（りやくはいし）	十六
神拝詞（しんばいし）	十六
祖霊拝詞（それいはいし）	十七
守護神祝詞（しゅごしんのりと）	十八
元津皇大神 報恩之祝詞（もつすめおおみかみほうおんのりと）	十九
日本龍神祝詞（にほんりゅうじんのりと）	二十
龍神祝詞（りゅうじんのりと）	二十一
龍王祝詞（守護神）（りゅうおうのりと）（しゅごしん）	二十三
身滌大祓（みそぎのおおはらい）	二十四
大祓祝詞（中臣祓）（おおはらいのりと）（なかとみのはらえ）大正年内務省選定	二十五
大祓祝詞（中臣祓）（おおはらいのりと）（なかとみのはらい）	二十八
大祓祝詞（おおはらいのりと）	三十一
六根清浄大祓祝詞（ろっこんしょうじょうおおはらいのりと）	三十五
先天三種大祓祝詞（せんてんみくさのおおはらいのりと）	三十六
三種大祓祝詞（さんしゅおおはらいのりと）	三十七
天地一切清浄祓祝詞（てんちいつさいしょうじょうのりと）	三十七
一切成就祓（いつさいせいじゅはらい）	三十八
奉幣式祝辞祝詞（ほうへいしきしゅくじのりと）	三十八
元日祝詞（がんにつのりと）※元日に唱える祝詞	三十九

祈念祭祝詞（きねんさいのりと）	．．．．．	四十
御年神祭祝詞（みとしかみまつのりと）	．．．．．	四十一
節分祝詞（せつぶんのりと）※節分に唱える祝詞	．．．．．	四十二
神饌祝詞（しんせんのりと）※何神においても御供物を奉る時、柏手を八つ打つ	．．．．．	四十四
神酒祝詞（みきのりと）※神酒を上げる時、柏手を八つ打つこと	．．．．．	四十五
潔齋祝詞（きよめののりと）※七五三などの節門時に唱える	．．．．．	四十五
鳥居之祓祝詞（とりいのはらいのりと）※鳥居に向かい一礼して、唱える	．．．．．	四十五
鳥居之祓祝詞（とりいのはらいのりと）	．．．．．	四十六
伊勢内宮神前祝詞（いせないぐうしんぜんのりと）	．．．．．	四十六
伊勢外宮神前祝詞（いせとつみやしんぜんのりと）	．．．．．	四十七
産生神祓祝詞（うぶすなかみのはらいのりと）	．．．．．	四十八
最上祓（さいじょうはらい）	．．．．．	四十九
最要祓祝詞（さいようはらいのりと）	．．．．．	四十九
大元造化三神報恩之祝詞（だいげんぞうかさんじんほうおんののりと）	．．．．．	五十
大元造化三神報恩之祝詞『現代語訳』	．．．．．	五十一
五元之神を拝む辭（ごげんのかみをおがむことば）	．．．．．	五十二
先祖靈屋祭辭（せんぞみたまやまつのことば）	．．．．．	五十三
神傳をしへの一言（しんでんをしへのひとこと）	【一紙経文】	五十四
大道神祇（だいどうしんぎ）	．．．．．	五十五
大日本国々一ノ宮祝詞（だいにっほんくにぐにいちのみやのりと）	．．．．．	六十
十種神宝「布瑠の言（ふるのこと）」	．．．．．	六十八
十種神宝大御名（とくさのかんだからのおんみな）	．．．．．	六十八
十種神宝祓詞（とくさのかんだからのはらえことば）	．．．．．	六十九
十種大祓祝詞（とくさのおおはらいのりと）	．．．．．	七十
大國神甲子祝文（だいくくじんきのへねしゆくもん）	．．．．．	七十三
惠美須神祝詞（ゑみすじんのりと）	．．．．．	七十五
稻荷大明神祓祝詞（いなりだいまようじんはらいのりと）	．．．．．	七十七
稻荷大神秘文祝詞（いなりおおかみひものりと）	．．．．．	七十八
金毘羅神祓祝詞（こんびらじんはらいのりと）	．．．．．	七十九
天満宮祝文祝詞（てんまんぐうしゆくもんのりと）	．．．．．	八十
粟島神巳待祓祝詞（あわしまじんみまちはらいのりと）	．．．．．	八十一
庚申祓祝詞（こうしんのはらいのりと）	．．．．．	八十三
鎮火祝詞（ひしづめののりと）	．．．．．	八十六
日待之祓祝詞（ひまちのはらいのりと）	．．．．．	八十七
月待之祓祝詞（つきまちのはらいのりと）	．．．．．	八十八

地鎮祭招神祝詞（じちんさいしょうじんのりと）	．．．．．	八十九
地鎮祭祝辞祝詞（じちんさいしゅくじのりと）	．．．．．	八十九
清祓式開場祝辞祝詞（きよはらいしきかいじょうしゅくじのりと）	．．．．．	九十
山神祓祝詞（やまのかみのはらいのりと）	．．．．．	九十
海神祓祝詞（わだづみのはらいのりと）	．．．．．	九十一
船玉祓祝詞（ふなたまのはらいのりと）	．．．．．	九十二
釜所神祝詞（かまどのかみのりと）	．．．．．	九十三
竈神祭祝詞（こうじんさいのりと）	．．．．．	九十四
井戸神祓祝詞（いどのかみはらいのりと）	．．．．．	九十四
井神祭祝詞（いどのかみまつりのりと）	．．．．．	九十五
井神祭祝辞祝詞（いのかみまつりしゅくじのりと）	．．．．．	九十六
鉦始祭祝詞（てをのはじめのまつりのりと）	．．．．．	九十七
柱立祝詞（はしらだてのりと）	．．．．．	九十八
棟祭祝詞（むねのまつりのりと）	．．．．．	九十九
屋堅之祓祝詞（やがためのはらいのりと）	．．．．．	百
衢神祝詞（ちまたのかみのりと）	．．．．．	百一
障神祭祝詞（さへのかみまつりのりと）	．．．．．	百二
賽神之祝詞（かみあけのりと）	．．．．．	百三
三科祓祝詞（みしなのはらいのりと）	．．．．．	百四
疫神祝詞（えきがみのりと）	邪神除祝詞（まかがみじよのりと）	百四
疫神祓祝詞（やくじんのはらいのりと）	．．．．．	百五
祈病祝詞（やまひのいのりのりと）	．．．．．	百六
祈病祝詞（やまひのいのりのりと）	．．．．．	百七
病氣平癒祈願祝詞（びようきへいゆきがんのりと）	．．．．．	百八
祈家内安全祝詞（いのりかないあんぜんのりと）	．．．．．	百九
祈念祝詞（きねんのりと）	．．．．．	百十
祈造酒祝詞（いのりぞうしゅのりと）	．．．．．	百十一
雨乞祝詞（あまごいのりと）	．．．．．	百十二
祖先の靈舎に向て申す詞（とほつおやのみたまやにむかひてもうすことば）	．．．．．	百十四
祖先の靈舎に向て申す詞 略文（りやくぶん）	．．．．．	百十四
祖廟靈鎮祓祝詞（そびようたましづめのはらいのりと）	．．．．．	百十五
神拝之次第（じんはいのしだい）	．．．．．	百十五
俗信拝次第（ぞくしんはいのしだい）	．．．．．	百十六
遥拝祝詞（えうはいのりと）	．．．．．	百十七
神供祝詞（しんくのりと）	※柏手を打ち、これを唱える。	百十八

降来要文祝詞（こうらいのようもんのかじり）※神祇を迎い奉るに	百十八
送納要文祝詞（そふなふようもんのかじり）※本宮へをくり奉るに	百十九
略神拝次第（りやくじんはいのしだい）	百十九
御食御酒の祝詞（みけみきののりと）	百二十
神酒祝詞（みきのりと）	百二十一
天祖神の大道祝詞（おおみかみのかみのみちのりと）二拝二拍手一拝	百二十一
天祖神 賛言（おおみかみたえこと）	百二十一
清大祓（きよめのおおはらい）	百二十一
一切成就大祓（みななるのおおはらい）	百二十二
三種大祓（みくさのおおはらい）	百二十三
四魂大祓（よつのおおはらい）	百二十三
御霊清大祓（みたまきよめのおおはらい）	百二十四
幽界魂清大祓（かくりよのみたまきよめのおおはらい）	百二十五
言霊賛祝詞（ことたまたえのりと）	百二十七
大道祝詞（かみのみちのりと）	百二十八
感謝祝詞（いやひのりと）	百二十九
一体祝詞（ひとつのりと）	百三十二
魂新替祝詞（たまあらかえのりと）	百三十四
龍王大神祝詞（りゅうおうおおかみのりと）	百三十六
御祖宗祝詞（みおやののりと）	百三十七
天災から身を守る言霊（てんさいからみをまもることたま）	百三十八
あいうえお祝詞	百三十九
四十八音祝詞（しじゅうはちおんのりと）	百四十
あおうえい祝詞	百四十
天の数歌（あまのかずうた）	百四十二
いろは祝詞	百四十三
天津祝詞の太祝詞事（あまつのりととのふとのりとこと）	百四十三
ひふみ祝詞	百四十四
あわの祝詞	百四十五
八言の神咒（やことのかじり）【天之御中主大御神の真言】	百四十六
十言の神咒（とことのかじり）【天照大御神の真言】	百四十七
十三言の神咒（とみことのかじり）【天之御中主大御神の真言】	百四十八
天之御中主大御神神咒（あまのみなかぬしおおみかみかじり）	百四十八
神家故實（しんけのこじつ）	百四十九
神家忌詞内七言外七言（じんかいみことばないしちげんげしちごん）	百四十九

御幣の作り方（１）	・ ・ ・ ・ ・	百五十
御幣の作り方（２）白川流	・ ・ ・ ・ ・	百五十三
御幣の作り方（３）古式	・ ・ ・ ・ ・	百五十五
奉幣之式（ほへいのしき）	・ ・ ・ ・ ・	百五十七
祓い串、紙垂の作り方	・ ・ ・ ・ ・	百五十八
第弐章 かたかむなうたひ	・ ・ ・ ・ ・	百六十三
かたかむなうたひ 第一首から第八十首	・ ・ ・ ・ ・	百六十四～二百四十三
かたかむな文字図表	・ ・ ・ ・ ・	二百四十四
第参章 経典	・ ・ ・ ・ ・	二百四十五
仏説摩訶般若波羅蜜多心經	・ ・ ・ ・ ・	二百四十六
仏說聖不動經	・ ・ ・ ・ ・	二百四十七
不動尊劔功德の文	・ ・ ・ ・ ・	二百四十八
不動尊祈經	・ ・ ・ ・ ・	二百五十
著作權侵害について	・ ・ ・ ・ ・	二百五十二
出版社出版日	・ ・ ・ ・ ・	二百五十三

第壹章 祝

詞

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の祓祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

祓祝詞（はらえのりと）

かけまくも かしこき いざなぎの おおかみ

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに なりませる

※山吹色文字は、読まない、※黒文字だけ読むこと。

※衣服を脱いだ時に成った神々

※杖 つきたつ ふなとの かみ

※袋 ときおかしのかみ

※袴 ちまたのかみ

※左腕輪 おきざかるのかみ

※左腕輪 おきつかひべらの かみ

※右腕輪 へつなぎさびこの かみ

※帯 みちのながちはのかみ

※衣 わつらひのうしのかみ

※冠 あきぐひのうしのかみ

※左腕輪 おくつなぎさびこの かみ

※右腕輪 へざかるのかみ

※右腕輪 へつかひべらの かみ

※潮流の中流で清めた時に、黄泉の国の穢れから成った神々

やそまが つひのかみ おおまが つひのかみ

※その禍を直すために成った神々

かむな おひの かみ おおな おひの かみ いづの めの かみ

※潮流の底で清めた時に、成った神々（上記三神Ⅱ綿津見三神 下記三神Ⅱ住吉三神）

そこつ わたつみの かみ そこつ つのおの かみ

※潮流の中程で清めた時に、成った神々

なかつ わたつみの かみ なかつ つのおの みこと

※潮流の表面で清めた時に、成った神々

うわつ わたつみの かみ うわつ つのおの みこと

※最後に顔を洗った時に成った神々（三柱のうずのみこⅡ三貴子）※黙読する事。

※左目 あま てらす おおみかみ ※右目 つく よみの みこと

※鼻 たけは やす さの おの みこと

はらえど よは しらの かみたちと ともに もろもろの まがこと
 つみ けがれを はらひ たまひ きよめ たまふと もうす ことを
 きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

※神前に立ち、祝詞を奏上する時、先ず二拝し、次の祓祝詞と神棚拝詞祝詞を奏上する。

祓祝詞（はらへのりと）

かけまくもかしこき いざなぎの おおかみ
つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎはらひ たまひし ときに

なりませる はらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみけがれ あらむをば

はらひ たまひ きよめ たまふと まをす ことを

きこしめせと かしこみ かしこみも もおす

神棚拝詞祝詞（かみだなはいしのりと）

これの かむどころにます かけまくも かしこき

あまてらすおおかみ

『家に祀つてある神様の御名を唱える』

うぶすなのおおかみたちの

おおまえを おろがみまつりて

かしこみ かしこみも もうさく

おおかみたちの ひろき あつき みめぐみを かたじけなみ まつり

たかきたふとき みおしえの まにまに なおき ただしきまごころ もちて

まことの みちに たがふ ことなく おいもつ わぎに はげましめ たまひ

いえかど たかくみすこやかに よのためひとのためにつくさしめたまへと

かしこみ かしこみも もうす。

神棚拝詞祝詞の奏上が終わったら、

拝礼 (はいれい)

二拝二拍手

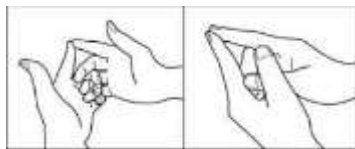
(祈念)

一拝

天津被 (あまつはらえ)

※「とほかみえみため」の言葉は、願望実現の為の究極の言葉である。一切の罪穢れを被い、福寿をもたらす大被詞の秘詞である。

天津被い方位別唱え言葉



左図の様に鎮魂印を結ぶ

1、南を向き

と ^{いちれいかんほど} 一靈感程

2、南東を向き

み ^{きいつ} 帰一

3、東を向き

た ^{げんきまんしん} 元気万進

4、北東を向き

ほ ^{かいき} 回歸

5、北を向き

え ^{いっさいまんぎょうしん} 一切萬行進

6、北西を向き

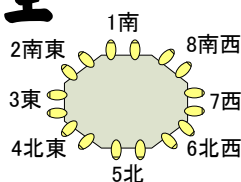
め ^{まんぼう} 萬寶

7、西を向き

か ^{せいめいじょうずほど} 生命成就程

8、南西を向き

み ^{しよえん} 所縁



図表に沿って、方位別に唱え言葉を唱える事。

○はらひ	たまひ	○と	ほ	か	み	え	み	た	め
○きよめ	たまふ	○と	ほ	か	み	え	み	た	め
○めぐみ	たまふ	○と	ほ	か	み	え	み	た	め

はらひ たまひ とほかみえみため

きよめ たまふ とほかみえみため

めぐみ たまふ とほかみえみため

(二十遍唱える)

○とほかみえみため

祈念

これから、『住所』『生年月日』『氏名』が、

じゅうしょ

せいねんがっぴ

しめい

のぞ

ねがごと

望む『願い事』が、

かみさま

きせき

ちから

しめい

あた

神様の奇跡の力によって、『氏名』に与えられました。

ふか

こころ

かんしゃ

ありがと

深く心より感謝します。有難うございました。

天之御中主大御神様

いつも奇跡の力で、私に恵みを頂き、誠にありがとうございます。(三遍)

【と】水の神 【ほ】火の神 【かみ】木の神 【えみ】金の神 【ため】土の神

『と』全ての事が成っていく象意、先も安定 『ほ』水蒸気が立ち上がる勢いのある象意

『か』陽気、運氣強く盛ん、神の助けあり 『み』物事が始まる象意

『え』陽気盛んで、幸運を得る象意 『た』木の行き通う象意、男女の愛和

『め』ものの象意をそのまま表す象意

と言われる。はらいたまえ、きよめたまう、めぐみたまう、を別にして、とほかみえみためを唱える回数、

二十一回とか四十回唱えないといけないと言われているが、私が思うに、人には、五人の守護霊つまりは魂の兄弟がいるので、五人×九回＝四十五回十ゆつくりと自分の分一回の合計五十四回唱えないといけない。つまりは、自分を守ってくれている魂に捧げるのである。葬儀、年忌の場合は、その人がお亡くなりになり、六人があの世に行っている状態なので、六人×九回＝五十四回同じ速さで唱える。ようは、誰の為に、とほかみえみためを唱えるのかによって、速さや唱える回数が違ってくる。

とほかみ とは、

とほつみおやかみ せんぞがみ

遠津御祖神（先祖神）

と かみ ことあまつかみ くにう かみ さんきし

十の神（別天津神・国生みの神・三貴子）

ことあまつかみ
別天津神とは、

あまのみなかねしおおみかみ たかみむすびおおみかみ かむみむすびおおみかみ
天之御中主大御神・高皇産靈大御神・神皇産靈大御神・

うましあしかびひこぢかみ あまのとこたちかみ
宇摩志阿斯訶備比古遲神・天之常立神

くにう かみ
国生みの神とは、

いざなみのみこと いざなぎのみこと
伊邪那美之命・伊邪那岐之命

さんきし
三貴子とは、

あまてらすおおみかみ つくよみのみこと すさのおのみこと
天照大御神・月読之命・須佐之男命

えみため とは、

感謝しています。微笑んで下さい。

とほかみえみためとは、御先祖の神様、十の神様、感謝しています。
微笑んで下さい。となる。

天津被 (あまつはらえ)

吐 普 加 美 依 身 多 女

国津被 (くにつばらい)

寒 言 神 尊 利 魂 陀 見

蒼草被 (ひとあおくさのはらい)

波 羅 伊 玉 意 喜 餘 目 出 玉 登

天津祝詞（あまつのりと）

たかまのはらに かむづまります

かむろぎ かむろみの みこと もちて

すめみ おやかむ いざなぎの みこと

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに

あれませる はらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろずの かみたちと ともに

あまの ふちごまの みみ ふりたてて

きこしめせと かしこみ かしこみ もおす。

産土神祓祝詞

(うぶすなのかみのはらいのりと)

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみ

かけまくも かしこき あまてらす おおみかみ うぶすなのおおかみ

ちんじゅのおおかみを はじめ

いとも ありがたき わがしゅごの ごそんざい たちの

おおまえを おろがみ まつりて かしこみ かしこみも まをさく

おおかみさま ぶっそん たちの

たかき とうとき こうみようを いつも いただき

ひろき あつき みたまのふゆと ごぶつとくを

うみの この いや つぎつぎに たまわり めぐみ たまひ

われは てんちしぜんのだおりにしたがい おかげさまの ところを もちて

われの じんせいを たいせつにして われとかぞくを ねぎらい

はげまし かんしゃして ところに えいようを あたえ

なりわいに はげみ てんしよくに ならしめ たまひ

わが いちれい しこんと ところが いや ますますに

せいちょうし ようじょうし ところがけ みすこやかに

よろづの ねがうこと かなえ たまひ

うぶすなの しんぶつは ゆうけん ちようわの しんぶつにて

うつしよを さりぬ のちは たかき れいかいに はいらしめ たまひ

じょうどへと みちびき たまひ

うつしよも かくりよも たのしみ よろびの かわる ことなく

みこころも なごやかに きこしめして まもり めぐみ さきはへ たまひ

いへかど たかく いやたかに いやひろに さかえしめ たまふ ことを

いんよう ちようわ された うつくしき だいしぜんの ちきゅう じんるいの

へいわ はってんの ために つくさしめ たまひ

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろづの かみたたちと ともに

きこしめせと かしこみ かしこみも まをす

神言（かみごと）

※言霊の大祓祝詞

たかあまはら おのころに かみづまいます

すめむつ かむろぎ かむろみの みこと もちて

ち よろづの かみたちを かむつどへに つどへ たまひ

かみはかりに はかり たまひて

したつ いわねに みやばしらふとしきたて

たかあまはらに ちぎ たか しりて

いづの かむたからの おおみこころの まにまに

あまつ かなぎを もとうちたち すえうちたちて

ちくらに おきくらに おき たらはして

あまつ すがそを もとかりきり すえかりきりて やはりに とりさきて

あまつのりとの ふとのりとを のれー、

ー

ー

かくのらば かみがみは おのも おのもの いわとを おしひらきて

いづの ちわきに ちわき たまひて きこしめさむ かく きこしめしては

あめのくに うつしくに ともに つみと いふ つみは あらじと

しなどの かぜの ふきはなつ ことの ごとく
あさかぜ ゆうかぜの ふきはらふごとく

おおつべにいる おおふねを へときはなち ともときはなちて
おおうなばらに おしはなつ ことの ごとく

のこる つみも けがれも あらじと

はらひ たまひ きよめ たまふ ことを

よしはらへ あしはらへ たまひて いやさかの みよとこそ

さきはへ たまえ さきはへ たまえ。

開運祝詞 (かいうんのりと)

※神様の救いを急に求めたい時、とっさの危機が迫った時、痛み・苦しみ・悩みなど、色々な時に、神様に救いの手を求める時に唱える言霊である。

かなながら たまち はへませ かなながら たまち はへませ

かなながら たまち はへませ

うむち はるち つづち うむち はるち つづち
うむち はるち つづち うむち はるち つづち。

略拝詞（りやくはいし）

※「私をお祓い下さい。お守り下さい。幸をもたらして下さい。」という気持ちで、神社、神棚において、またお祈りをする場において、唱える。
（心の中で唱えても良い。）

はらひ たまひ きよめ たまふ まもり たまひ あきわえ たまひ。

神拝詞（しんぱいし）

かけまくも かしこき

あまつかみ くにつかみ やおよづのかみたちの

おおまえを つつしみ うやまひ おろがみて

のみまおさく おおかみたちの

ひろき あつき みめぐみを

かたじけなみ まつり

たかき とうとき みおしえの まにまに

なおく ただしき まごころ もちて

まことの みちに たがふ ことなく

わが なす わざを

いやすすめに すすめ たまい

いえかど たかく みすこやかに
 まもり さきわえ たまへと
 かしこみ かしこみも もをす。

祖霊拝詞

(それはいし)

かけまくも かしこき かくりごととおおかみ
 また とほつ みおや よよの みおやたちの
 みたま やからの みたま みたまやに まします
 みたまたちの みまえに つつしみ うやまひて まをさく
 きようの このひに みまえに おろがみ まつる
 まごころを きこしめして うけたまひ
 いまも ゆくさきも まがごと あらせず
 うみのこの つぎつぎ うじなけがさず つぎつぎ いえかど ひろらに いかし
 たちさかへ しめ たまへと つつしみ うやまいて もをす。

守護神祝詞

(しゅごしんのりと)

かけまくも あやに くすしき とおつみ おやの しゅごしんに もをす

(自分の事「住所」「生年月日」生まれでございます。「氏名」と申します。)

うちゅうかいびやくの かくりよ うつし よのさだめに のつとり

みたまの けいとうを みちびきたまふ かしこき きわみに

ふかき かんしゃの いのりを ささげ まつらく ねがわくば

われに まつわる あくじゅんかんを たちきり たまいて

けがれなき れいたいを かくりつ せしめ たまえや

いまし せんぞだいたい またぜんせより ひきつぎて

しゆくごうの しめいをば はたさせ たまへと うけいを なして まおさく

アチメー オ オ オー——

まもりの かみは きませり たまはこ もちて ほほえみ たまふ (三・五拍手)

ヒフミヨイ ムナヤコト モモ チ ヨロズ

かむながら たちまち はえませー

これより しゅごしんさまの ごはつどうと ともに わが じんせいを

かがやかしめ たまひ みちびき まもり たまわむ ことを

かしこみ かしこみ もおす。

元津皇大神

報恩之祝詞

(もとつすめおおみかみほうおんののりと)

かけまくも いとも かしこき てんきよく しびきゆうに まします
もとつ すめおおみかみの おおまえに かしこみ かしこみも まおす
おおかみの くしき たへなる みたまのふゆに よりて

このうつしよに あれいでたる みにし あれば

この もとつ みめぐみに むくい まつらむ として

たたへ ごとを へまつらくは いやたかく そこひなき もとつけは

ももたらす やその かみけを なし たまい

ひのみくに つきのみくに ほしのみくに またこれの おおつちに ありては

うつしき あをひとぐさを はじめ いきありも いきなきも よに ありとし

あるものの かぎりを うむしいで うしはぎ まもり さきはへ たまえる

みいさをの おおき ひさしき ひろき あつき おおいつくしみを

かかぶりて このうつしよに あらむ かぎりは

おおかみの もとつ みこころの まにまに

この こころを つくして うむことなく

このみをつとめて おこたる ことなく うやまい

かしこみつかへ まつる さまを たいらけく やすらけく きこしめして

よものくにの みこたる すべて あおひとぐさらの もろもろの
 つみけがれを おおかみの かむわざ まことの みひかりに
 よりて はらひ きよめ たまひて もとつ みたまを かがやかせ たまひ
 みろくのよ かみの みくにに たちいたらしめ たまへと
 よのまもり ひのまもりに まもり めぐまい さきはえ たまへと みそら
 はるかに おろがみ まつらくと もおす。

もとつすめおおみかみ いやさかへ ましませー

もとつすめおおみかみ いやさかへ ましませー

もとつすめおおみかみ かむながら たまち さちはへませー

もとつすめおおみかみ かむながら たまち さちはへませー

日本龍神祝詞

(にほんりゅうじんのりと)

かけまくも かしこき あめつちの おおかみたちの くしきみたまに よりて

おおつちに あれいでませる りゅうじんの おおまえに

かしこみ かしこみも まをさく

りゅうじんの みいつの もとつけを もちて